

# 能登半島地震被災者の仮設集会所利用の促進 —仮設住宅団地における居場所づくり—

GAPPA noto 会長 金沢工業大学 竹内 申一

## 1. 研究の背景

令和6年能登半島地震を受け、北陸3県8大学・高専の21研究室の学生が中心となり、任意団体 GAPPA noto(正式名称:北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト)が2024年4月に設立された。GAPPA(がっぱ)は、「一生懸命になる」という意味を持った石川県の方言である。団体設立の目的は、仮設住宅団地において、居住者の方々の安らぎのある住環境と豊かなコミュニティの形成を支援することであり、モノづくりとコトづくりを中心に、建築を学ぶ学生だからこそ出来る支援のかたちを模索することが目指されている。

## 2. プロジェクトの立ち上げ

プロジェクトの対上げは、令和6年1月15日から本格化した。大学教員有志の初打合せが行われ、北陸3県8大学等の意匠・計画系研究室を中心に連携を呼びかけることとなった。(表1)

当初から念頭に置かれた活動として、熊本地震のKASEIプロジェクトがある。仮設住宅団地の集会場まわりの空間改善とコミュニティ形成支援に取り組むという内容が、本団体の行動目標になると考えられたためである。3月27日にはKASEIプロジェクトの代表者である九州大学の末廣香織教授にヒアリングを行い、2週間ごとの全体会議を経て4月に団体の概要と目標が定められ、任意団体の設立が決定した。

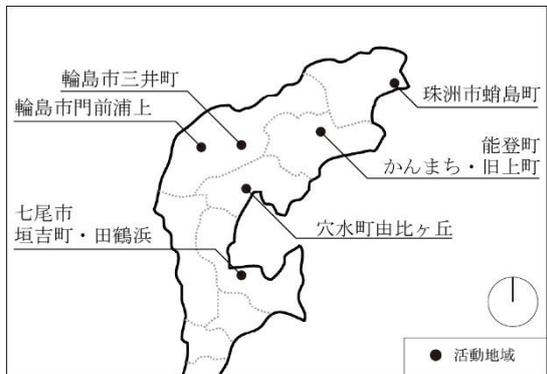
表1 設立時の参加者一覧

【富山県】2校4研究室	
上原雄史(富山大・教授)	横山天心(同左・准教授)
藪谷祐介(同左・講師)	川本聖一(富山国際大・教授)
【石川県】3校12研究室	
白石英臣(金沢大・講師)	丸山耕太(同左・准教授)
西野辰哉(同左・教授)	藤井容子(同左・准教授)
佐藤考一(金沢工大・教授)	下川雄一(同左・教授)
竹内申一(同左・教授)	円井基史(同左・教授)
宮下智裕(同左・教授)	藤井健史(同左・講師)
西本耕喜(金沢美大・准教授)	豊島祐樹(同左・准教授)
熊澤栄二(石川高専・教授)	
【福井県】2校4研究室	
菊池吉信(福井大・准教授)	西本雅人(同左・准教授)
裏敏廷(同左・助教)	丸山晴之(福井工大・准教授)

## 3. 支援対象団地の選定

GAPPA notoの石川県内の活動は5市町6地区の仮設住宅団地で行われている。(図1)対象地の選定にあたっては、参加学生数や対象の団地の規模、集会場や公民館の有無を勘案しながら、各市町の担当者との協議によって決定した。当初の活動のイメージが共有空間である集会場における環境支援であったため、集会場や公民館が隣接している団地であることは必須であった。

図1 石川県内の活動対象地



#### 4. 活動の開始と能登半島豪雨

当初の計画では、6月から現地での活動を開始し、8月から9月の期間に本格的なワークショップ等が行えると思われた。しかし、4月の段階で仮設住宅団地の建設の遅れや各地域の代表者が不透明な状態であったため、6月末までは各地区への具体的な相談を控え、記者発表やWeb開設を行いながら活動資金集めを行った。

現地での活動が具体化し始めたのは7月に入ってからである。7月末には各地区でのチーム編成が行われ、9月初旬には各市町の関係者との協力体制も築かれ、9月下旬から10月上旬にかけて現地でのイベントやワークショップ開催が予定されていた。しかし、これらは奥能登豪雨によって順延を余儀なくされ、実質的な現地での活動開始は11月以降にずれ込んだ。

#### 5. ヒアリングを通して見えてきたこと

現地での活動開始にあたって最初に行なったのは、各地域の住民の方々へのヒアリングである。そこで分かったことは、住民の方々がまず望んでいるのは、当初の目的であった集会施設などの充実ではなく、各住戸内の住みやすさの改善であった。多くの地区で共通に聞かれたのは、収納不足による住みづらさであった。そこで、初期の活動の方針を、共有空間の充実から各住戸の居住空間の改善へと切り替えることとした。

#### 6. 各地区での活動成果

##### 三井町第1・2団地での取り組み

初回の2024年9月には現地視察とヒアリングを行い、調理スペース不足や収納の不便、安否確認への不安といった課題が明らかになった。

これを受け、11月の「三井地区文化展」ではクラシックコンサートや落語など多世代が楽しめる交流の場を設けるとともに、調理環境改善を目的にマグネット付き組板「まなピタ」(写真1)を住民と製作した。各戸訪問を通じて活用法の説明や新たな課題の聞き取りを行い、その結果、「収納不足」が大きな問題として浮かび上がり、段ボールを用いた安価で処分も容易な収納家具「段ボックス・段ボード・突っ張りボックス」(写真2)を考案。第2回イベントでは餅つき大会をきっかけに思い出ワークショップと収納相談会を実施し、住民の意見を反映して改良を重ねた。第3回では公共空間のアイデア相談会とともに改良版収納ボックスを配布し、多様な用途での活用が進んでいる。



写真1 まなピタの使い方を住民に説明



写真2 突っ張りボックスの活用例

### 門前第1団地での取り組み

第1回の訪問にて、地区代表者や行政らと顔合わせを兼ねた意見交換を行った。浦上地区は祭礼や朝市など年間を通じた行事が盛んな地域であったが、震災や大雨の影響で多くが中止となった。仮設住宅では自主的な植栽活動も見られる一方、外部団体による支援イベントは参加が固定化し、住民の負担や疲れも指摘された。その後、奥能登豪雨後には避難所で茶話会を実施したが、2024年12月以降の活動は一時中断している。

### 蛸島町第2・3・4団地での取り組み

初回の視察では、入居者によるDIYでの生活環境改善の実態とともに、冬季の断熱対策への不安や生活音・匂い・プライバシーといった仮設住宅特有の課題を把握した。第1回ワークショップでは、キッチン用まな板「マナピタ」を配布し、「GAPPA カフェ」(写真3)や地域写真展を通じて「収納棚が欲しい」「花を植えたい」などの具体的なニーズを収集した。



写真3 GAPPAカフェ  
お茶を飲み、お困りごとを伺う

第2回では、前回の声を反映した収納アイデア「段ボックス」の提案、「あなたの町の記憶展」による地域への愛着の再確認、ク

ラシックコンサート(写真4)での心安らぐ時間を提供した。その後、収納ボックスの実配布や表札づくりワークショップを通して、コミュニティの繋がりの深さを実感した。一連の活動を通じて、対話から得られるニーズを次回に反映させる循環的な支援体制の有効性を確認できた。



写真4 クラシックコンサートの様子

### かんまち住宅での取り組み

これまでに計4回のイベントを実施した。第2回では、石川県の郷土料理である治部煮の炊き出しを行い、住民同士や支援者との対話を通じて生活課題の把握と交流の促進を図った。同時に収納BOX製作ワークショップ(写真5)を実施し、住民が製作に没頭する体験を共有することで心理的緩和の効果も確認された。



写真5 収納ボックス製作

第3回では「アイデアボード」を設置し、地域住民の声を集約して今後の活動方針に結びつけた。また、収納家具の製作・配布を実施し、その実用性と達成感が好評を得た。さらに第4回では、住民の要望を踏まえて竹を用いた流しそうめん(写真6)とものづくりワークショップを開催し、季節感を共有しながら多様な世代が参加できる交流の場を創出した。



写真6 流しそうめんの様子

#### 由比ヶ丘団地での取り組み

由比ヶ丘団地での活動では、「りんごプロジェクト」(写真7)を通してコミュニティ支援に取り組んだ。この活動では、りんごを食べて種を取り出し、発芽させて公費解体された自宅跡地に植えるという取り組みを通じて、住民と深い交流が実現した。



写真7 取り出したリンゴの種を植える様子

「久しぶりで嬉しい」「成長が楽しみ」という声から、ささやかな喜びと未来への希望を共有する機会の重要性を実感した。第1回の種取り出し作業、第2回の鉢植え作業と段階的に進め、3大学の学生が住民の部屋まで鉢を運ぶなど、世代を超えた交流が自然に生まれた。学生も住民から元気をもらう相互作用を体験し、継続的支援の基盤を構築できた。

#### 垣吉町団地と田鶴浜町団地での取り組み

田鶴浜団地では、10月に「どこでもカフェ」に参加し、被災当時の状況や現在の生活について直接話を伺うとともに、仮設住宅の見学を通じて、騒音やプライバシーなど具体的な生活課題を把握した。12月にはコミュニティセンターで模擬店や餅つき、クリスマスライブを実施し、地域住民との信頼関係を構築した。子どもから大人まで幅広い世代が交流し、地域に根差した温かい繋がりを実感することができた。

垣吉町団地では、まなピタの配布や集会所の靴箱制作、グリーンカーテンの設置を実施した。7月には「かき氷フェス」と「収納大作戦」、8月には「風鈴色付け体験」(写真8)を開催し、多世代の交流を創出しながら、収納に関する個別相談会を実施した。



写真8 風鈴色付け体験の様子

表2 令和7年9月までの取り組み一覧

団地名称(戸数)	担当研究室	活動日	摘要	参加人数	
				学生	住民
門前浦上第1団地(79戸) 門前浦上Gゴルフ場 門前浦上Gゴルフ場横	金沢工大宮下研, 福井工大丸山研	2024.7.19	市役所訪問		
		2024.9.7	団地訪問にて、公民館長と住民代表へヒアリング	4人	2人
		2024.12.1	避難所を訪問		
三井町第1団地(68戸) 三井地区交流広場 三井町第2団地(20戸) 三井地区運動広場	金沢工大竹内研, 金沢大西野研,藤井研, 富山国際大川本研	2024.9.14	団地訪問にて、公民館長へヒアリング	13人	2人
		2024.11.3	三井地区文化展へ参加し、まなびタWS・スマートフォン教室を実施	19人	120人
		2025.3.29	餅つき大会、思い出WS、収納アイデア相談会を実施	10人	50人
		2025.6.8	収納ボックス(段ボックス等)を配布、思い出WS、公共アイデア相談会を実施	11人	30人
蛸島町第2団地(42戸) 市営Gゴルフ場北 蛸島町第3団地(48戸) 市営Gゴルフ場西 蛸島町第4団地(51戸) 市営Gゴルフ場南	金沢大白石研, 金沢工大竹内研,Toiro, 金沢美大西本研	2024.7.5	市役所訪問		
		2024.9.28	団地訪問	6人	5人
		2024.12.5	まなびタを配布、GAPPA カフェと私のまち写真展を開催	23人	60人
		2025.5.17	収納アイデア相談会、がっぱカフェ、学生活動アイデア集、あなたの町の記憶展、コンサートを実施	36人	51人
		2025.7.12	収納ボックス(段ボックス等)を配布、がっぱカフェを実施	20人	30人
		2025.7.27	表札制作のWSを実施	8人	11人
かんまち住宅(34戸) 旧上町小学校	福井大菊地研, 金沢工大Toiro	2024.7.19	市役所訪問		
		2024.11.10	団地訪問、茶話会の実施	15人	7人
		2025.1.25	治部煮の炊き出し、収納BOX制作WSを実施	12人	40人
		2025.5.25	アイデアボード、収納ボックス・ラック制作WS、くりむあんみつの提供を実施	15人	20人
		2025.8.31	流しそうめん、竹を使ったものづくりWSを実施	12人	30人
由比ヶ丘団地 (85戸・95戸) 陸上競技場① 陸上競技場②	金沢大丸谷研, 福井大妻研究室	2024.9.6	役場訪問		
		2024.11.15	団地訪問	7人	3人
		2025.3.7	団地訪問・リンゴを配布	7人	45人
		2025.4.19	リンゴの種植え作業を実施	10人	50人
垣吉町第1団地(66戸) 田鶴浜多目的G	金沢工大藤井研	2024.9.5	市役所・住民代表を訪問		
		2024.10.5	団地見学	7人	5人
		2024.12.15	模擬店とお餅つき、クリスマスライブを実施	10人	30人
		2025.5.8	まなびタを配布	9人	10人
		2025.5.25	グリーンカーテンの設置、集会所の靴箱制作を実施	13人	10人
		2025.7.12	かき氷の提供、収納家具の制作	9人	10人
2025.8.5	風鈴づくりWSの実施、収納家具の制作	10人	15人		

※Gはグラウンドの略

## 7. 今後の課題と展望

現地での約1年の活動を通して、主に仮設住宅団地の各住戸の居住環境の改善と、コミュニティ維持のための様々なイベント開催に取り組んできた。各地区における取組は様々であったが、隔月で交互に行われる全体会議と地域リーダー会議において情報が共有され、それぞれの地区で得た知見を他地域に応用するなどの展開も多く見られた。収納アイデアによる居住環境改善はどの地域においても好評であり、一定の成果を得る事が出来た。また、様々な企画で行われたイベントも、参加者が固定化するなどの課題はあったが、コミュニティ形成の一助となり得たと言える。

今後の活動の目標としては、当初の目的であった共有空間の充実による居場所づくりの実現と、より多くの住民の参加が挙げられる。また、祭りなどの地域固有の文化継

承にも携わることが出来ればと考えている。これまでの経験から、食を介したイベントには多くの住民が参加する傾向が見られた。そのため今後の活動の起点として、2地域で試験的に共有空間に BBQ ベンチ(写真9)を製作・設置することとした。こうした空間提案を通じて、当初の目的であった居場所づくりとコミュニティ形成支援を継続して行ってゆく予定である。



写真9 蛸島地区に設置された BBQ ベンチ